

非常持出品・備蓄品を準備しよう

# 災害への備えは 日ごろから

9月1日は、関東大震災を教訓に定められた「防災の日」。また、この時期は台風が多く発生する季節です。災害の被害を最小限にとどめるためには、日ごろから防災の意識を持ち、備えをしておくことが大切です。自分と自分の家族を守るためにはどうすればいいのか、わが家の防災について考えてみませんか。

## 日ごろからの備え

平成16年は自然災害の多い1年でした。日本列島には、史上最多の台風が来襲したのをはじめ、局地的な集中豪雨による被害が発生しました。また、10月23日には、新潟県中越地方で震度6強の地震が発生し、多くの人が長期間の避難所生活を強いられる大きな被害が出ました。

最近では、8月16日に宮崎県沖を震源とする震度6弱の地震が発生し、被害が広範囲に及びました。また今年、局地的な集中豪雨や雷による被害が全国各地で発生し、浦幌町でも7月31日の夜に桜町で1時間雨量44ミリの激しい雨を観測しました。この日

最大1時間降水量44ミリは、1976

年の統計開始以来、年間を通して第1位の記録となりました。私達は、常に災害の危険と隣り合わせで生活しています。「自分の住んでいるところは大丈夫」、「台風は来ないだろう」という油断が、時として命を奪うことにもなります。

災害の発生を止めることはできませんが、事前に防災対策を行うことで、被害を軽減させることはできます。日ごろからの防災対策が、いざというとき、私達の家族の命を守るのです。

## 風水害対策

台風や豪雨は、襲来時期や規模をあ

る程度予測することができます。日

ごろから天気予報を気にかけて、テレビ、ラジオの情報を聞き流さないようにし、ときにはインターネットで最新の情報を収集するようにしましょう。

「注意報」は何か災害の起こるおそれのある時に発令されます。「警報」は重大な災害の起こるおそれのある時に発令されます。

日ごろから、「屋根のひび割れやずれはないか」、「アンテナはしっかり固定されているか」、「窓ガラスのひび割れや破損はないか」など家の周りを点検しておきましょう。

## 地震対策

●揺れを感じたら身体の安全を確認



地震の強い揺れで全壊した木造住宅。地域の住民が協力しての炊き出し。(新潟県中越地震)

## 生活用品

カセットコンロと予備のガスボンベ、毛布、衣類、トイレトペーパー、ドライシャンプー、ビニール袋、キッチン用ラップ、生理用品など。



## 工具類

家屋が倒壊した場合などに備えて、救出活動に使えるスコップやバール、のこぎり、車のジャッキなどを用意しておく。



地震で地割れした道路。  
(03年十勝沖地震:愛牛地区)



し、反射的に「火の始末」、「火を消す」という行動を起こす習慣を家族みんなに身に付けておきましょう。

●寝る部屋に家具を置く場合は、体の上に倒れてこないように配置をし、家具と壁や柱の間に空間をつくらないようにしましょう。また、L字型金具や重ね留め用具、家具の転倒防止器具などを利用して転倒や落下を防ぎましょう。

●津波は地震発生後、あっという間にやってくる場合があります。海岸にいたとき、あるいは沿岸地域にいたとき、強い地震や長い時間の揺れを感じたら、津波警報の有無にかかわらず一刻も早くその場を離れ、できるだけ高い場所に逃げましょう。また、津波は繰り返し襲ってきます。警報や注意報が解除されるまで、海岸に近づかないようにしましょう。

## 非常持出備蓄品リスト

## 非常持出品

避難するときに持ち出す最小限の必需品です。あまり重いと避難に支障が出るので、必要最低限のものをまとめ、すぐに取り出せるところに保管しておきましょう。

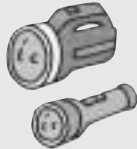
### ヘルメット・防災ずきん

落下物から頭を守るための必需品。必ず家族の人数分用意すること。



### 懐中電灯

停電時や夜間の移動に欠かせない。できれば一人にひとつずつ用意したい。



### 携帯ラジオ

小型で軽く、FMとAMの両方を聴けるものがよい。



### 予備電池

意外に忘れがちなもの。懐中電灯、携帯ラジオ用に、少し多めに用意しておくこと安心。



### 非常食

乾パンやアルファ化米など、火を通さずに食べられるものを。



### 水

持ち運びに便利なペットボトル入りを。



### 救急医薬品・常備薬

キズ薬、ばんそうこう、解熱剤、かぜ薬、胃腸薬など。常備薬があれば忘れずに。



### 貴重品

預貯金通帳、健康保険証、免許証など。現金は紙幣だけでなく、公衆電話用の10円玉も忘れずに。



### 生活用品

衣類、軍手、ナイフ、ライター、缶切り、簡易トイレなど。



## 非常備蓄品リスト

## 非常備蓄品

災害復旧までの数日間を自足するためのものです。最低でも3日間は自足できるだけの量を用意しておきましょう。

### 非常食

そのまま食べられるか、簡単な調理で食べられるものを。アルファ化米やレトルトのごはん、缶詰やレトルトのおかず、インスタントラーメン、チョコレートなど。しょうゆや味噌などの調味料も準備しておくこと便利。



### 水

飲料水と生活用水を用意する。飲料水は、1人1日3リットルが目安。生活用水はプラスチックのタンクなどに入れて保存しておく。またお風呂の水を次々に入るまで残しておく習慣をつけると、いざというときに生活用水として利用できる。



●お問合せ先 役場総務課防災係 (TEL 6 - 2111 内線 213)